

平成21年度「専修学校を活用した就業能力向上支援事業」成果報告書

コース名	③女性対象コース		
事業名	即戦力となる事務系知識を持った製菓助手育成		
法人名	学校法人 府内学園		
学校名	大学進学予備校 府内学園		
代表者	財前 俊樹	担当者 連絡先	松尾 敏生 097-546-5213
1. 事業の目的			
<p>子育てを終えた女性を対象に、豊の梅園企業組合と協働して製菓講座を開設指導するとともに、就職後即企業戦力化に備え、一般教養・パソコン・簿記・のし書き（書道）の講座で簡単な事務・販売処理ができるようにする。新卒者よりも対人関係が豊富な利点を明確化するため、就業体験を取り入れる。また、わが国の食料自給率40%の問題が取り立てられている中、大分県産商品を活用した製菓レシピを作成し地産地消を目ざす。大分県農業祭等でジョブ体験も行なう。</p>			
2. 事業の実施に関する項目			
①カリキュラムの概要（目的・科目数・内容・期間）			
<p>子育てを終え就業を強く希望している主婦が主たる対象。</p> <p>受講講座： 製菓講座 和菓子職 105 時間。 洋菓子職 105 時間 (7～10 月) 事務職講座 パソコン・簿記講座 30 時間。 書道講座 6 時間。 (10～11 月集中講座) 就職試験対策講座 (国・社・数・理・英) 30 時間。 (11 月集中講座) マナー講座 1 日 (10 月) 3 回の連絡協議会を開き、関係各方面からの意見を参考にして、受講者が就業できるよう努めた。</p>			
②受講者の募集方法（手法・期間・効果）			
<p>受講者募集に当たっては、主に下記の方法を用いて行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新聞広告（9月6日の1回掲載） 2. 市内公民館へのチラシ設置 3. 県内全てのハローワークへのチラシ設置 4. 関係NPO・アイネス・サポートステーションチラシ・心療内科に配布・ <p>応募状況は定員25人のところ、実人数22人の応募があり、全員を受講対象者とした。途中受付も可とした。</p>			

<p>③受講者の状況</p>
<p>受講者 22 人の内訳は下記のとおりである。 女性 22 人 年齢層は 20 代 6 人／30 代 8 人／40 代 5 人／50 代 1 人／60 代 2 人 いずれも受講開始時点では定職に就いておらず、大半が専業主婦であった。</p>
<p>④受講者の意識調査等</p>
<p>講座終了後に実施したアンケートの結果によると、受講者の満足度は 1 悪かった 2 あまりよくなかった 3 普通 4 よかった 5 大変よかったの 5 段階評価で結果返送者 21 名中、4 よかったと答えた者 6 人（28%）、5 大変よかったと答えた者 15 人（72%）であった。概ね良好であったと思われる。</p>
<p>⑤受講後の状況（修了者数・就職率）</p>
<p>受講者 22 名のうち、8 割以上出席した者 19 名に対し、学園独自の修了証書を出した。和菓子講座受講者 20 名中： 正規雇用 3 名非正規雇用（パート）11 名 就業せず 4 名（子育て・体調不良） 不明 2 名、 洋菓子講座受講者 21 名中： 正規雇用 3 名 非正規雇用（パート） 11 名 就業せず 5 名（子育て・体調不良） 不明 2 名 【実人数 22 名中：正規雇用 3 名非正規雇用（パート） 11 名 就業せず 6 名（子育て・体調不良） 不明 2 名】であった。 講座中は託児条件が完備されていたが、就業となると勤務先に託児がないとできないのが現状であった。製菓以外にもパソコン・簿記の講座を行なったので、パートとして勤務できるようになっていた。</p>
<p>3. 事業の評価に関する項目</p>
<p>①当初目的の達成状況</p>
<p>受講生の大半が、満足したとの回答を得た。また就業率 64%（14 人/22 人）はまずまずの成果であると思われた。大分県産品を利用したいいわゆる地産地消の製菓レシピをつくりあげることができた。</p>
<p>②事業の成果及び改善点</p>
<p>事業の主な成果は次のとおりである。 ① 一般主婦の製菓店での助手育成プログラムの完成 ② 地産地消のレシピの完成 ③ 製菓の知識だけでなく、簿記、パソコン、書道、マナー講座を設けることで一般業務</p>

の基礎を理解できるプログラムの作成

③次年度以降における課題・展開

1 広報が不十分で、このような事業を行っていることが知られていない。予算をなるべく広報に使わず、より多くの教育に費やすことに心がけたため広報が不十分になったが、生徒募集方法をもっと工夫すべきである。また、2 製菓作成は全般的において基本知識の教授したため、単純作業の就業には適さない結果となった。菓子組合の方からは、クリスマス前など、繁期に基本的単純作業にも熟練できる主婦の育成を求められた。つまり、ケーキのデコレートなどの基本技術に熟練した女性の育成が課題となった。

④成果の普及

成果内容を冊子にして、関係機関に配布し、その普及に努めた。